

栃木県立矢板東高等学校 リベラルアーツ同好会チームあさぼらけ

高校生ボランティア・アワード2023

フードバンク、ボランティア活動を通して、 地域とつながる

活動概要

私たちは、2021年に「貧困・格差の改善、環境問題の改善」を目的に掲げたボランティア団体です。昨年度、本校初の校内フードバンク活動を実施し、現在も定期的にフードバンク活動を行っています。本校は県内で3校しかない公立の中高一貫校であることから、高校生のみならず中学生にも活動内容を知ってもらうことができます。そのため、多くの人たちに現代社会における「貧困・格差の問題や環境問題」を解決するために、私たち自身が何が出来るのかを知ってもらえる機会を設けています。学校を舞台としてどのようなことができるかをメンバーで考え行動を起こした結果、少しずつですが活動が認知されるようになりました。

昨年度は今までの活動からつながりが生まれたことによって、様々なボランティアを紹介していただいたり、オンラインではありましたが、同じ目的を持ち活動している他校の生徒とフードバンクに関して話し合いをするなど、飛躍の年となりました。

2023年は活動を始めて3年目になります。メンバーも発足当初は6名でしたが、現在は15名となりました。これからも、自分たちでできる社会貢献の在り方を模索しながら、行動をしていきます。



第2回フードバンク



バレンタイン大作戦



ビッグイシューの周知



スマイルハウスのボランティア

「知って、伝えて、広げよう」

私たちの活動のキャッチコピーは、「知って、伝えて、広げよう」です。昨年度のフェアトレード店でのインタビューを通して、私たちが想像していた以上にフェアトレードという言葉を知らない人がいること、そして知らないということは、フェアトレードという活動に関わることができないのだということを実感しました。この経験から、私たちの活動をきっかけとしてより多くの人たちに貧困・格差の問題や環境問題を知ってもらえればと思い、現在活動を行っているところです。

昨年度の活動の反省から、今年度はPRするポスターをより興味・関心の持てるようなものに変更しました。また活動内容を廊下に掲示することを通して、私たちの活動を宣伝し、一緒に取り組んでもらえる仲間を増やしました。

私たちの活動は小さなことかもしれませんが、次の世代にも引き継いでいくことで、継続した支援ができる高校生団体として、地域の方々とともに問題を解決している存在であり続けたいです。



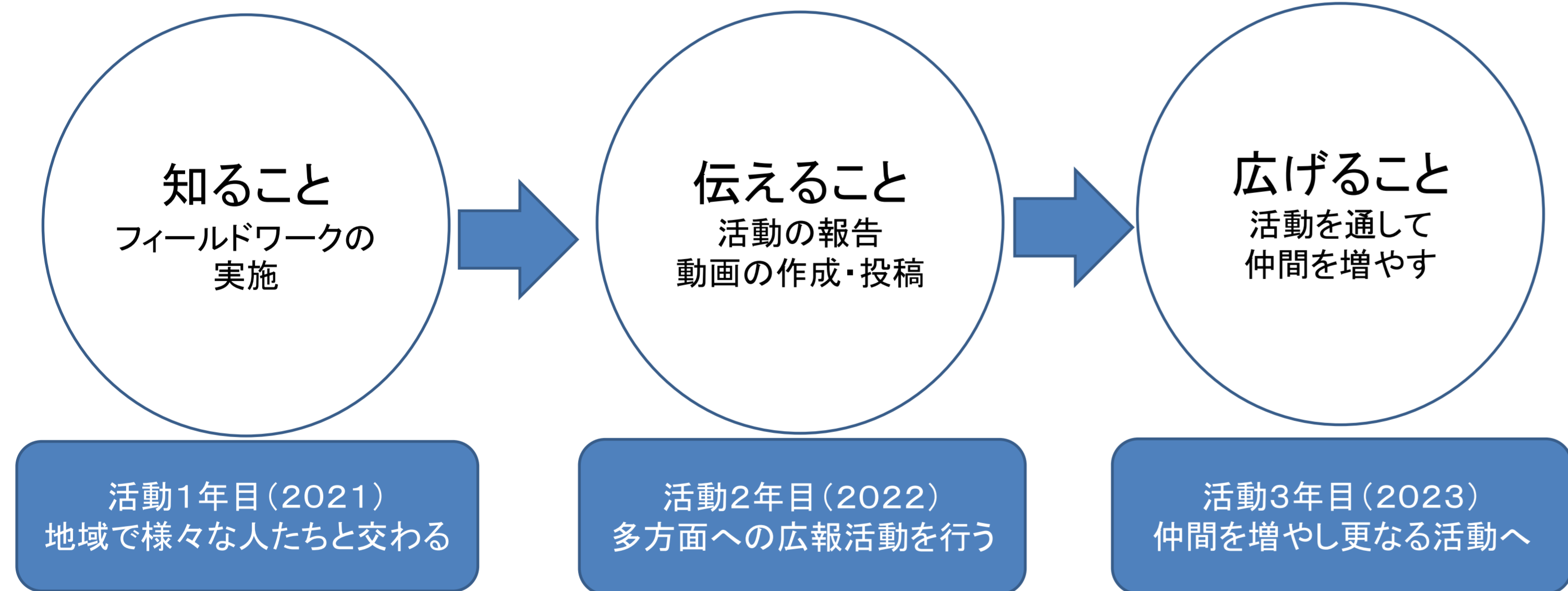
フードバンクの実施を周知するためのポスター3種類を作成し、各クラスに掲示

問題を自分事として捉え、行動に移す

チーム発足当時は、「〇〇してみたい」などと話すだけで、なかなか行動に移すことができずいました。当時はコロナ禍ということもあり、学校でできることにも制限があって、活動そのものが難しい状況でした。しかし、自分たちの熱意を学校に伝えたところ、校内でのフードバンクを行うことができるようになりました。今年の5月には、3回目のフードバンクを実施することができ、多くの寄付品を集めることができました。その際にフードバンク県北でお話を伺ったところ、「目には見えないけれども、困っている人が身の回りに多くいるんだ」という言葉が特に印象的でした。

一步踏み出し行動に移してみると、同じ考えを持つ人に出会うことができ、学校を越えて地域の方々とともに問題解決にあたっているという実感を持つことができました。今後も私たちに考えたことを行動に移し、多くの人を巻き込みながら活動をしていきたいと思っています。

主な活動分野：貧困問題、格差問題



活動の詳細(実施内容/成果・実績など)

- ・栃木県内で行われているフードバンクへの訪問およびインタビュー
- ・子どもの居場所スマイルハウス主催、クリーン大作戦への参加
- ・子どもの居場所スマイルハウス主催、秋祭りボランティアへの参加
- ・大田原市社会福祉協議会主催中高生が考える福祉のまちづくりin大田原への参加
- ・フェアトレード商品の委託販売「バレンタイン大作戦」の実施
- ・ビッグイシュー周知のための校内掲示作成
- ・Change Makers FES2023への参加
- ・第3回校内フードバンクの実施

印象に残った活動
バレンタイン大作戦(2月14日実施)
高校生でもフェアトレード商品の販売に携わることができ、販売当日は無事にすべての商品を完売することができた。
(フェアチョコレート:30個 ドライマンゴー:7個 リサイクルバック:3個)



フェアトレード商品を広めるためのバレンタイン大作戦実施の一場面

「見えない問題、見ていない問題に向き合う」

先進国といわれている日本でも、約2000万人の人が、貧困線以下での暮らしとなっています。また、日本の子どもの7人に1人が、十分な食事や医療を受けることができない状態といわれています。しかし、私たちの周りではそのような状態である友人を見かけません。見かけないという言葉にはやや誤解があり、もしかすると、見えない問題なのかもしれないし、見ていない問題なのかもしれません。

内閣府の「国における子供の貧困対策の取組について」には、子供の貧困を取り巻く課題として、以下の4点が挙げられています。

- ・子供、家族に貧困であるという自覚がないので、自分から支援を求めない
- ・貧困の自覚があっても、周囲の目を気にして表に出せない
- ・頼れる親戚も、近隣付き合いもなく、地域の目が届かない
- ・国や地方自治体の情報が届かず、社会的に孤立しやすい

このような特徴があるため、相対的貧困は見えにくいものとされています。また貧困は、連鎖することによって子どもの教育面への悪影響や生活・健康面にも悪影響を及ぼすため、世界的に見ても喫緊の課題といえます。私たちはこの貧困問題を解決するために、2021年に活動を開始しました。活動を開始したことでわかったことは、このような状況は現代社会で生活している以上、いつでも誰にでも起こりえるということです。例えば、仕事を行うことができなくなるような不慮の事故に遭ってしまったり、病気で思うように生活できなくなってしまうことなどで突然収入が途絶えてしまうことは容易に想像することができます。だとすれば、社会で生きていく中で、できるときにできるだけの支援をしていく必要があると思えました。私たちのやっていることは小さなことかもしれませんが、それでもやれることを積み重ねていくことで、社会の力になっていきたいと思っています。



活動団体プロフィール

2021年に発足したリベラルアーツ同好会公民班。6名で始まった団体ですが、現在は15名まで仲間が増えました。チーム名の「あさぼらけ」には、貧困や格差の問題について、私たちの手で少しでも明るい方へ...という意味が込められています。

初期メンバー
今井勇喜、植木猛至、池亀晋作、大串絵莉香、山田美月、根岸叶羽
2期メンバー
多田愛咲、栗田愛、ハーポーン海、清水映太、渡辺倅生、佐藤青弦、上野華蓮、葛西夢彩、齋藤美結
新しいメンバーを迎えて、今後も地域のために様々なことにチャレンジしていきたいです！